



ひろば

2016年12月15日
第518号



稲城市立稲城第三小学校4組の皆さんの作品です。

“にないあい”による稲城市の生涯学習推進

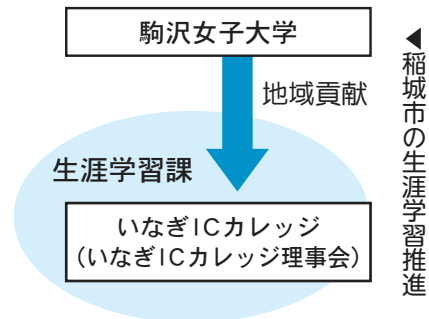
“つなぎあい”から“にないあい”をキャッチフレーズにしている「第三次稲城市生涯学習推進計画『Inagi あいプラン3rd』」は、国が主催する社会教育主事養成講習会のテキストにも採用されています。また、市の生涯学習推進の中心的役割を果たしている「いなぎICカレッジ」は、市民ボランティア理事会と市が共催する「市民と行政の協働を超えた“にないあい”」の代表事例であり

「都市型市民カレッジ」として、全国の成功事例にもなっています。また「いなぎICカレッジ」に対し、市内唯一の大学である駒沢女子大学は、現学長が自ら、高い評価をしてくださり、これまで自校で開設していた大学公開講座を、仏教講座などに特化する一方で、大学教員全員が「いなぎICカレッジ」講師として協力するという画期的な取り組みにより、積極的なご支援をいただいています。市では、市民カレッジの創設にあたり、担当職員を増員することなく、予算増をすることもなく実現し発展させてまいりました。社会教育主事と最少人数の職員が担当している「いなぎICカレッジ」を中心に、行政だけではできない部分を、多くの市民・団体等に“になって”いただけるシステムを積み重ねている「“にないあい”の生涯学習推進」は、今、全国的にも注目されています。

※市では平成5年度、15人の専門委員（教育委員・学識経験者・各種団体代表者・関係機関の代表者など）による「稲城市生涯学習振興計画策定委員会」を発足し、広く市民の意見を伺いながら委員会を開催しましたが、意見集約まで、2年間22回の委員会を経ることになり、平成7年2月に、“～であい・ふれあい・まなびあい～”「稲城市の生涯学習の振興のあり方について」（提言）を策定していただきました。当時、大橋謙策会長から市長が「市民総意の結集」として、重く拝受し、具現化を約束し、翌年（平成8年）、市では「Inagi あいプラン」稲城市生涯学習推進計画を策定しましたが、この計画が、全国自治体から視察を受けるほどの内容となりました。

以来、市として、平成7年の提言を具現化するまで、市の長期総合計画の策定のたびに、翌年度に「生涯学習推進計画」を策定しつつ、未だ実現できていない課題などを整理し、市の長期総合計画との相乗作用を図ることで、着実な生涯学習推進の具現化をしています。

▷問合せ 生涯学習課



◀稲城市の生涯学習推進